



遠門

號 967

卷 10 止

本清

嵐城花月譚卷之十

平安

瀬川恒成戲編



第十回

京六美胆一子
清澄慈心三言を援く

話

不題旦説
桂樹里に京六とて貧しく暮るる百姓あり
原一守羅上家の老臣鎌田利玄衛が即子あり
馬淵清二と呼ぶが同家子仕へたる侍女所愛
が客儀に逢ひ密通したる料あり。年討も遭
たり。夫人の情恒より助命して彼女と諸

敵道我田へさし引遠へる帳面と。
 賤布汲かきけ。朽木を朽ま清門口より色よく。
 朶六ぬし裡子有るや。昨日約せし未代家賃工面
 仕りさし精取人。但しに例のお尚主うと。言ひ
 遠入る女房阿豆。朽兵未ぬしう。よくこそ来ませ
 了。良人を足下の言うく通す。今日も道はぬ要用
 有る。京の町へ往付是を。夜分ならぶる時もぬら
 ぬ。明日こそ来ませと。言せも果は肉我より入も
 苦菜のぬしう言ひ飯は趣向る。尚主を去る

ら良うるむら世ども。今日も是氷とも裡子居る
 中。昨日かきく約結しうぐ。又も外して苗主の
 うし。何日迄吾儕は約つしうぞ。引足らぬども
 家内のむらけぬしうぬらんと。進上りてつ
 にかき買の紙門を。米方より引あけ。立出る主
 朶六。是の狼藉あり朽ま清どの。僅の備金有りと
 ず。理不尽な朶六が。家内のむらけぬしうけり
 いとむらげと。突度せと。朶六内子居つる。むら
 張通与けが口惜しう。未代家賃は病む松へと。

本年の秋より月日只養ひ子養ひたせらる。
 人々も此方の物も金網をいかにと。又
 互うせむ又制止ぬ。金網をいかにと。又
 んと。約したる愛をうたせ。やと柄を清昨日の約
 端ら金子成渡に苦なる。耳は何処に付くあり。
 然るに金子成渡に逆与せ。言ふや及ぶと懐中よ
 是。取出し投る十両色柄を清を呆せたり。忝し
 とおし裁き。腕に成布子納め。長居のおそれ
 おいとちと。跡成もさだして立ぬ。何重の不審

暗やよは良人の例へ立たり。今の金子の有と
 を初らば。新言より還さんと。いかに如く留ま
 ると言ども。柄を清へ肯ん。先刻より狼藉高言
 真の穿えと憚り。影護思ひし。只今の払いの
 気味のよき。明日より米を食ふも。心安く成ゆ
 れど。安堵よりぬを銀子の出処。何処に借出玉
 ひしや。長いの貧苦故。借に存する人の病と。一切
 覚へけしぬ。ゆふか。今朝の咄夕心桂の何
 原より。山名公の我新成先。金子成奪し。人有

嵐山抄 卷之十

三

生女堂

とく吟味の役人出張あり。庄官も往きしよりな
る。とへど夜折の還りの遅さ。それを衣服の裳小
少し血のやうさうもの着るなり。よまやとを
へども。貪の偷盗と言うるを。金子も迫りし
足下も若や此変に拘らひて在らずと。疑向も
まの良人必ふ。心を察し取らる。明く夫とを得る
言ぬと。和宵京より還る来りし時。何者か知らぬと
も。彼河原より大甚う。喧嘩をうたふものあり
罪に合ふ志撃合し声の騒しう聞えしが其
四

成願る暇をたや。復果て一人一人も。跡も
見えざりし。道中一人の死骸。横たはる外
も有らざれば。此処より日間取らる。瓜田の履
恐色あり。怪しむらむを。難免と。思へる
もや。れを。飛脚の武士ら。得も知らぬ。其
と。坊方へ。久々。及。僅十歩も。さざり。何やらん
足もとへ。纏るもの。有り。故何やらんと。搔搔と
と。これを見よ。金紋布を。開くと。ねど其
重さ。凡百金を。うりも。ゆり。人。秋。是。ご。有。ら。る。明

一風... 二...

剛子通^と借^か借^かも。まう二^に方^は法^は医^い蔵^{ざん}中^{ちゆう}も。公^{こう}安^{あん}一^{いつ}是^し
 を^を解^いる^る天^{てん}石^{せき}の。吾^{わが}儻^{たう}が^が貧^{ひん}苦^くと。忠^{ちゆう}義^ぎ成^{せい}情^{じやう}を^を。与^よへ
 玉^{たま}ころりめ^めの^のう^うな^な。有^あ難^{がた}と^と押^お裁^{さい}き^き。懐^{くわい}中^{ちゆう}あ^あい
 り^りゆ^ゆた^たせ^せと^と。出^い処^{しよ}知^ちま^まざ^ざる^る金^{かね}子^こま^ま色^{いろ}を^を。締^しり
 と^と言^いも^も影^{かげ}護^ごく^く。汝^なも^も隠^ひら^らい^いな^なて^ても^も一^{いつ}や^や吾^{わが}儻^{たう}の
 彼^か托^{たく}を^を。救^{きう}し^し取^とり^りま^まの^のな^なら^らう^うと^と。疑^ぎふ^ふま^まの^の今^{いま}
 の^の尋^{たづ}ね^ねを^を。勞^{らう}さ^させ^せる^る益^{えき}を^を。潜^{ひそ}り^り結^{むす}り^り知^ちら^らい
 る^るあ^あり^りま^まの^のう^うけ^けと^と。殺^{ころ}せ^せし^しま^まら^らぬ^ぬを^を。畏^{おそ}る^るこ
 と^とを^をあ^あら^らぬ^ぬと^とも。斯^{かく}る^る時^{とき}を^を。壁^{かべ}に^に耳^{みみ}。石^{いし}に^に口^{くち}と

り^りう^うう^うの^の勢^{せい}人^{にん}よ^よま^ま結^{むす}り^りと^と。言^いひ^ひし^して^ても^も何^{なに}か^かや
 ら^らぬ^ぬ。油^{あぶら}を^を。清^{きよ}ぬ^ぬ良^ら人^{にん}の^の綱^{つな}。夫^{つま}と^と知^ちま^まと^とさ^さら^らう^う
 ぬ^ぬ魚^{うい}。然^{しか}と^と笑^{わら}ひ^ひし^し声^{こゑ}づ^づら^らう^うと^と。今^{いま}に^に綱^{つな}の^のご^ごと^とく^くま
 ら^らぬ^ぬ。今^{いま}更^{さら}何^{なに}と^とう^うお^おひ^ひけ^けら^らぬ^ぬ。僕^{ぼく}侍^{しやう}に^にけ^けら^らぬ^ぬ。鬼^{おに}角^{かく}
 肉^{にく}を^をや^や四^よ川^{せん}を^を。益^{えき}飯^{はん}や^や焼^{やく}んと^と。坐^まを^を立^たて^て。妻^{つま}を^を勝^かち
 へ^へ。六^むを^を。真^{まこと}の^の一^{いつ}万^{まん}へ^へ入^いり^りま^まら^らう^う。折^おり^りま^まら^らう^う。保^{たも}険^{けん}の^の
 豆^{まめ}蔵^{ざん}。前^{まへ}夜^よ河^か原^{げん}で^で宗^{そう}全^{ぜん}と^と申^{まを}す^すの^の飛^ひ押^おを^を。殺^{ころ}り^りて^て。金^{かね}子^こ
 傳^{でん}し^しの^の坊^{ぼう}村^{むら}へ^へ。通^とじ^じし^しま^まら^らう^う。友^{とも}吟^{ぎん}味^みし^して^て。新^{しん}人^{にん}せ
 ぐ^ぐ。数^{かず}多^たの^の褒^ほ美^び下^かさ^させ^せんと^と。触^ふ状^{じやう}が^が廻^{まわ}り^りた^たま^まを^を。印^{いん}

判持て庄官どのまご。目今来ませと云捨取て。
聞て驚く三吉が。若家大人の身上。途爰から。
いふまへせん。嚮の標紙竊ひ聞け。不審に処もあて。
假令あよろけ殺さばとも。其処子落とて。賤布を
捨ひ。玉へと言袂立。其罪を道せがさけん。
鬼ても南ても家大人の。身も熱も。災難も。
家大人の災難を。匿ひ中せ。二方の。御身上も
か。へ。吾儕の恩あて。義理あて。親命も。へ。
助け来らせ。年来の養育の。恩も。教とんと。あひ

定ぬ。摺流は。硯の海。夫より。いとく。ふたれ
考の。筆。喰。湿。一。唇。底。認。あ。や。上。松。松。よ。太。美
か。が。庄。官。ど。の。迹。往。来。よ。り。好。お。く。き。ん。と
欺。す。ま。ご。幼。子。子。供。公。も。慈。お。を。迷。ふ。う。い
お。も。唇。状。懐。中。も。松。松。を。庄。官。が。辨。へ。ぞ。を。い
ゆ。く。き。う。う。表。證。が。い。く。寄。り。捕。人。の。武。士
我。を。子。十。子。う。ち。あ。り。と。上。意。く。と。乱。入。一。室。の。陰
子。刺。た。も。や。う。ば。蹴。破。と。出。る。主。人。采。六。是。を。狼。籍
う。と。捕。卒。の。人。々。何。科。有。り。我。家。へ。理。不。尽。子。寄。ら

嵐崎村戸籍宛券之一

るや上意は受る覚はる。奈何ある由へどと敦
圍ば捕人の大将十手振上。狼藉とを苦長る。汝
が家は去年より。羊良とどの例室古乃花。録田が
一子終海命。兩人代舎匿。新人有る。慥に聞。陀塚と
の命をうけ。召捕り向ふ。尋常と近与せら上
。其及子及む。家搜し。彼兩人を言子及む。汝
汝が妻子に至るま。繩うけ。郊へ牽人と言へ
。と京六ととも動せ。上意でをいら人ども。夢子
を知らぬ。右の兩人。微く鉋。一杖も。妻子と肩

む此京六。御覧の通り。の瘦百性。近歳の不作。み
其日。さへも。区。難き。貧乏人の。某が。滅す。の人
。其。匿ひ。養ふ。を。き。力量。ある。人。違ふ。とい。人
と。能。世。と。少。ぬ。捕。人の。役。人。京。六。よ。陳。ぼ。る。新。人。有
つ。た。か。子。少。り。そ。れ。難。人。が。新。へ。出。る。其。人
。こ。の。い。と。か。得。ぬ。新。へ。出。る。米。を。折。去。傍。汝。が。家
。肉。を。只。四。人。夫。子。何。ぞ。や。去。年。の。秋。より。是。迄。僅。半
。年。子。喰。ひ。米。の。符。号。ぞ。や。折。去。傍。も。不。審。子。思。ひ
懸。た。子。と。よ。せ。度。く。来。て。窺。ひ。ら。る。子。と。な

さぬ男女の若人兩人、奥の一室に潜居せり。其時、
いふ見付たるあり。定て彼兩人ありんと。今
柄も言来り。因て召捕り向ひし某、白状せしむ
以通すと。例に在令ふ三言、取て引提げ指付し
刃の物さしある。人質取きて、衆六が怯む子付
入る捕人の役人、やよくいふと責問へ。衆六
もせんろとあり。いろも白状仕る人、併城知て
を言難し。在官の方近まり、要細お人聞らざら
るし。然らば早くいざ立れと。焦立らきて、衆六

殿兵と俱ちうち連る。毒蛇の口の一思案。きこゆ
るこそそと出りゆく。一室に窺聞、冷海冬。右乃花
うちむらひ。忠臣を二とふひに。子も不ござさ
る。大事成結し。衆六が今の有さま。最早此処に
潜びがたし。我所俱しそ落延人。疾々準備し三
をいと。駭く成止むる妻阿重。先く侍せ玉ふたし。
おん疑る道理なきとも。何事御勘気赦させんと。
種くとお成輝き。忠義を勤る良人衆六。よもや城
城白状し、おん兩処に所難きを、けりやうる

武家古月十一年...
七
...

も比竟未従不忠不美なる心を侍らば榮かぬる
後俊玉ひる。若も胡濼の夏あはれ。主人の爲に
かへぐし。只一刀子付捨る。奴家もおん供仕らん。
其暇にこそ良人か心底黑白分るる要時分内奴
家子任せ玉り。かし。実一命代さし出し。吾は
我舎花馬淵清二。吾もよもやと忍へども。親子と
も油断のありぬ。礼世流季の世のありひ。それと
汝が公標に感づる。誓し猶豫せんと。心ゆくさぬ
関の戸を引開一室へ入り。跡不阿定を取つ

余川主の身の上良人の上。奈何と案じ煩ふ。老
見聞ふつけ。三吉も。俱に心を苦しむる。さうら
ら疾く救松も。案内させ。殿士等。村人をあの小
鬼即よ。上意。さして。さうけ。敢て。三吉取。引
伏。用意の纏。縛ら。ち。け。き。子。小。子。傳。む。を。
是ら何変と驚く。雪女。其子。何ホの村有。斯を
傳ゆ。玉ふや。人違へ。の。い。い。バ。や。よく。吟
来。玉ひる。麻忽の。ま。ま。玉ひ。と。取。携。り。城。捕
人の役人。取。突。退。け。声。あ。り。と。よく。聞。け。女。人



采六
美心
吾子と
刺れ

采六

杉松



大海之國

刺れ

美心

阿雪

二座 阿雪 阿雪 阿雪

十

空文堂

辨取と久を斬夜向の川原子。山名家の赤袴を
 死す。数多の金子取奪ひし曲者。子供子似合ぬ大
 胆不敵。所人有る明白子知る。食捕みむらひしな
 り。斬人とりふら外らう。夫らう。小児良彼が。斯
 斯も。控言状有やと。期と。驚きや。上。秋松。汝を何
 地へ何し。子往し。吾侪を此。各輪取も。莊官どの
 へ往れ。侍人。お侍人が。同伴と。還るりと。言ふ
 怪し。彼状。引取。よく見を。夜前河原。人
 殺し。金子取。畧集れもの。吾侪が。兄の。無吉。相

違と。さうく。いの上と。よむ度。ごと。子。裏く。拍。控
 下。し。川。の。喃。中。し。お。侍。さ。ぬ。見。玉。小。如。く。ま。ど。并。へ
 可。兒。小。兒。の。言。取。上。玉。小。を。大。人。気。ぬ。又。三。吉
 分。小。腕。子。く。或。さ。色。亡。る。人。何。う。人。や。其。処。亦。も。思
 へ。分。玉。へ。や。上。三。吉。よ。狼。根。を。と。ま。ど。言。状。取。ら。さ
 ざ。る。や。と。口。籠。立。色。を。頼。め。り。上。げ。舍。身。が。斬。へ。申
 せ。し。通。る。殺。せ。し。もの。を。吾。侪。と。し。人。を。死。し。し。助
 ち。ぞ。取。ら。し。と。く。ら。る。死。す。の。死。慢。小。陳。下。言。状。す。と
 も。い。け。ま。く。助。り。得。る。人。や。假。令。助。り。得。る。と。く

智も壽命も僅十あり三年もつゞめしもの
此やうも。妻も稀なる孝行子の歎込迎るに枉
津日の神の崇む逢ふる奈何なる因果の報
忘ぞや。羨望あり親といふるを。此方を羨望あ
る大なる子。良人の苗主も逆与して。先立玉ひ
し兄御の灵也。預るるを。我良人へ。奴家へ何
と言はせん。良人が飯を玉ふ逆。其子の得こそ逆
与さしと。又取携り泣叫ぶ。泪の雨も淫るよぞい
と。喰入る。縛り縄。かくるを果しと。野士とも。羨

理が有りが有まい。此方の知らぬ私更。極付
たり。利人子。還らぬ。言日。回費し。其処。離た。海や
と引退る。縄付い。川立。たち。ぬる。阿雪を。消る。只
ひして。泣親。抱く。西体。ある。忠を。孝子。有る。人。天
の。恵も。有る。り。わ。我良人。とり。ひ。彼子。ま。ど。
妻も。稀。有る。を。操。有る。が。う。も。幸。有る。と。此。之
を。智。世。日。を。替。へ。俱。子。捕。人。子。圍。む。と。家。成。ま。る
を。何。も。ぞ。増。く。心。の。安。う。ぬ。る。庄。官。が。待。り。と。言
は。せ。ん。と。出。往。せ。し。衆。六。どの。奈。何。子。を。け。ん。只

風成花月新置

今も我家に在玉いさむ。さういふ中にも言や
 も。有だにものを免お角子。甲斐よりその女子
 ぞと。地上に撲地と身投臥し。ういと泣こそ
 理なきまぶさむに杖松も。思ふぬ兄の縲縛の難
 女の哭泣見きくよつけ。いと気の毒も悲しく
 途方よりせさる。其処へ立ゆも又涙大。喃父さ
 おと取看稚見物と。言に取引伏せ。晃ると抜
 たる覚の名刀咽喉にふさと突立を。涙と漬る
 血涙と俱ふ。昔と一色杖松を。叫びも敢て息絶た

喃哀しやと立寄る妻を取突退け。大音上
 馬淵清二が底を疑ひ玉ひ。今
 の捕人定む。お流巻見玉ふ縲縛ありんと。氣を付
 三吉。人質を捕せらる。心惑ひ
 言解得た。倉倍御疑ひを重ねた。口を
 欺らる。是道少と場。匿ひ中せしむ。づいも。露
 ときえけ。勅當御免のお人頼ひも。叶ひがとけ
 んより最愛の一人子。我刺し。他子漏さぬ。現御
 る入る。へか。御疑念は解玉ひ。を安

山崎山房新編 卷之十 十四 室文堂

既^も真^まあが妻^{つま}を猶^{なほ}更^{さら}せ死^しあげら。夫^{おとこ}りどまらばも妻^{つま}
裡^{うち}立^たし。大^{おほ}き子^こ一^{ひと}毛^も三^{さん}吉^{きち}を。人^{ひと}殺^{ころ}すの科^{しよ}人^{ひと}ぞと。
名^な告^つり出^でり保^{たも}槻^{つき}成^{なり}らけ。捕^{とら}まへり他^{ほか}信^{しん}けりと。少^{すく}く原^{はら}
六^む勝^{かつ}然^{ぜん}るよ三^{さん}吉^{きち}の喜^こ伴^{ばん}が科^{しよ}成^{なり}身^み子^こ引^ひ緒^おり。名^な告^つ
出^で挿^さと成^{なり}しと夫^{おとこ}死^ししといと。任^{まか}氣^きの如^{ごと}く駈^か
出^でりを。後^{のち}あも依^よ門^{かど}の裡^{うち}より志^{こころ}を。清^{きよ}二^に整^{ととの}しと
呼^よ止^{とど}め。依^よ門^{かど}おし閑^{ひま}悠^{ゆう}くと立^た出^でる。録^{ろく}田^{でん}利^り兵^{へい}衛^ゑ
ふ繞^{めぐ}ひり冷^{ひや}海^{うみ}夕^{ゆふ}桂^{けい}大^{だい}良^らも緒^お共^{ども}ふ。上^{かみ}坐^まり押^{おし}居^ゑ
ど。是^{こゝ}を弥^やらしと原^{はら}六^む夫^ふ婦^ふ遠^{とほ}下^{くだ}り伏^ふ鉄^{てつ}以^も利^り兵^{へい}

所^{ところ}を故^こ然^{ぜん}と原^{はら}六^む子^こうら對^{たい}ひ。先^{まづ}那^のと悔^くり最^も愛^{あい}の
一^{ひと}子^こ成^{なり}朝^{あさ}し忠^{ちゆう}孝^{かう}成^{なり}主^{ぬし}勳^{くん}當^{たう}の總^{そう}せん。少^{すく}くを碎^{くだ}
汝^{なんぢ}が魂^{たま}を窮^{きゆう}中^{ちゆう}へ去^き年^{ねん}の秋^{あき}より。例^{れい}室^{むろ}と見^み郎^{らう}と西^{にし}
人^{ひと}成^{なり}舎^や花^{はな}を。冬^{ふゆ}して冊^ふづけ事^{こと}し其^{その}勳^{くん}功^{こう}国^{くに}よ君^{きみ}
うら。怨^{うらみ}り改^{かへ}む。怨^{うらみ}り子^こ改^{かへ}れとい言^いへ。猶^{なほ}い
つ遠^{とほ}く先^{まづ}那^のを分^{わか}り人^{ひと}。今^{いま}改^{かへ}りし原^{はら}の家^{いへ}録^{ろく}馬^ば測^{そく}清^{せい}
二^{ふた}子^こ用^{もち}意^い乃^の引^ひ出^で疾^{はや}く取^とりせよと下^{くだ}知^ちり。結^{むす}
と志^{こころ}り三^{さん}吉^{きち}を。床^{とこ}上^{かみ}下^{した}も更^{かへ}り。衣^い服^{ふく}大^{だい}小^{せう}重^{ちゆう}ねと
る。白^{しろ}木^ぎの臺^{たい}成^{なり}携^{かか}へ出^で原^{はら}六^むが前^{まへ}にさし置^おけ。顔^{かほ}見^み

る。淡海之女形とありて。馬御清二とく。夕ね。先
日粗高量一如く。秋月父子大西母子。謀計成就
し。明日桜子を蛇塚に許へ。婚嫁され。極川の
色を。日頃の爵憤報に。明日の夜孫に終せ。其
る。衆人奴隷若黨の。姿もれ。入込。合
圖成傳と撃入らん。床之進が。秋月老人。媒酌せ
し。と言付し。願ふても。うた味方の幸ひ。彼人其
建子有。吹成親ひ。狼烟成上人。其。吹付く。出よ
乃。約活る。色を。万変子。気成つけ。悟ら。い。ぬ。や。う。肝

要あり。借又先刺の捕人の奴。原。迎失。と。も。多。う
色。又。寄。来。る。と。必。定。あり。百。騎。二。百。騎。寄。と。と。と
。肩。と。も。必。り。ね。ど。も。大。変。成。拘。へ。一。身。上。を。色。に。
速く。城。家。と。主。去。り。都。子。内。を。難。を。避。人。疾。く。用
ま。と。謀。忙。し。主。色。を。夫。婦。の。実。と。用。名。し。と。吹。松
が。先。敷。の上。子。紙。門。障。子。を。積。と。重。ぬ。火。成。う。け。お
れ。衆。人。を。う。ち。つ。世。京。師。へ。急。に。内。く。畢。竟。人。を
都。へ。ゆ。り。と。何。度。を。う。け。下。回。よ。と。く。を。う。て。あ。ら
ん

第十回

乱臣賊士天誅子伏し
忠義節操褒賞誠受く

話

眠る古乃花鎌田父子。秋月桂太郎馬淵清二。三吉
所望の衆人。桂の里に退き。潜み大西が邸に
至る。其期は約やどる。既子其月よりうりうり。蛇
塚が邸より。今日秋人の来り候と言ふ。客内め男
女立派き。酒よ肴と聞き。料理献立混雑せ。か
く其月も黄昏過ぎ。初更も近くなり。か
秀の奴隷も長持葉荷荷擔せ。氷人の秋月桂

大夫は始め。大西探新人桜子。各竹葉よりち駕り
入て来き。蛇塚が親しき血属の者共亦。去
まか出迎へ。主客の席定り。れは。操女を一人
の童女。一。智恵出と。一の書巻我せたる小四
方。恭しく。床之進。少膝下押居。い。是。床之進。是
に有難し。と押我き。何う。とんと彼唇巻の奴
解く被き。られ。是。口。も。い。う。先。達。又。典。膳
。古。乃。花。子。撃。き。一。吸。み。畧。奪。色。一。味。合。神。の。連
名。状。あり。愕。然。と。登。き。床。之。進。例。か。火。折。へ。投。じ

を。焔と焔を川合國の狼烟。俄然と螺鈿響らせし
間。逃く耳内。の聲。麻之進。御と起上。佛
を。汝。心。汝。我。先。君。子。返。忠。我。我。禮。子。交
代。托。某。汝。敷。討。人。以。結。構。と。か。惡。さ。も。惡。た
女。め。後。家。め。扶。月。緒。共。神。う。け。誓。言。破。り。其。罰
我。月。今。當。り。く。ね。ん。は。と。袴。の。腹。真。り。取。上
腰。刀。見。り。と。抜。敵。操。汝。目。が。け。撃。り。菟。子。汝。操
女。を。有。誓。武。士。の。妻。女。良。人。の。魂。放。さ。ぬ。一。刀。得。り
と。脱。り。精。田。川。代。り。君。の。冤。汝。蒙。む。高。祿。を。知

と。我。き。う。ぐ。夫。汝。不。足。と。して。謀。反。汝。企。く。己。よ
与。せ。ぬ。もの。あ。ま。を。賢。臣。良。士。汝。經。言。く。人。を。害
主。君。よ。反。く。極。惡。不。道。の。奸。賊。蛇。塚。今。宵。の。肉。よ
根。汝。斃。く。葉。と。枯。さん。と。忠。美。の。武。士。ど。も。郎。の
四。面。を。圍。う。と。色。を。天。羅。逃。せ。ぬ。汝。身。の。上。尋。常
子。腕。を。廻。し。天。珠。よ。伏。せ。と。罵。り。汝。耳。あ。も。か
け。ん。又。切。菟。子。汝。受。り。間。よ。秋。月。清。英。桜。子。も。脊。一
刀。釘。脱。持。り。撃。り。菟。子。を。飛。鳥。の。如。く。身。を。斃。し。く
飛。退。り。受。つ。流。し。川。子。練。と。子。練。三。人。を。相。手。の。憤



乱討
室得

桂太良

大海之助



鹿之佳

權子

武蔵野の乱討

武蔵野の乱討

激突戦。以物音。子驚き。出来者。只今。追奴隷。
子化せ。鎌田父子。桂太郎。六ホ。豫。期。したる。
変る。せ。南。蛮。鉄。索。の。腹。巻。し。小。手。脚。盾。も。具。足。
川。長。持。筆。翁。子。匿。したる。得。る。の。く。成。提。け。右。
子。突。伏。左。子。切。伏。せ。當。城。幸。切。立。せ。元。来。不。意。の。
大。礼。あ。ら。う。ん。妖。習。威。の。辟。易。し。物。の。用。子。を。立。
もの。な。く。妖。知。の。物。後。彼。知。の。隅。も。身。成。潜。ま。し。
振。慄。居。る。妖。突。臥。せ。難。伏。り。け。入。る。群。羊。の。其。
中。へ。怒。き。る。虎。の。走。る。が。如。く。暫。暇。の。間。子。郎。の。内。

死。骸。々。積。る。山。と。赤。し。血。汐。を。流。せ。川。成。る。は。麻。
之。進。是。妖。と。些。く。の。や。怪。ま。る。ん。東。門。目。が。け。逃。
出。る。庭。の。池。上。子。打。り。し。は。板。橋。を。走。り。過。る。妖。追。
蒐。り。来。る。秋。月。鎌。田。逆。賊。蛇。塚。何。処。へ。内。く。敵。も。後。
成。せ。お。が。う。逃。走。る。を。比。竟。あり。と。耻。し。め。ら。れ。
く。麻。之。進。立。度。川。く。破。と。疾。視。微。塵。子。あ。と。んと。お。手。
く。蒐。る。妖。得。たり。と。兩。人。結。隊。し。互。に。透。向。妖。窺。ひ。
く。上。段。下。段。と。秘。術。派。竭。し。挑。こ。戦。ふ。其。う。ち。も。何。
と。ん。く。ん。府。之。進。持。た。る。刀。討。落。さ。せ。泉。水。子。必。

と沉しう。怪や白又を忽地よ。小やうある金亀の
姿と化しう。泉水の水を養ふ。雲張呼し昇天せん
に習ひよ。俄然としう。青天かき曇る。電光閃め
雷ありう。車抽め如は大雨の降出らる。了そ不
疑ある人々。奇異の思ひを。合戦残るも忘る。各
位泉水の目張付く。怪しを貪視居たり。按子
心裡よ。あふやう。是ぞ正しく先達。紛失したる
御家の重宝。亀丸の宝刀あり。若も昇天せしと
死に。まゝ取かへに。よしう。まう。ん。假令命を失

あふとも。一哀惜む。だに。あう。ば。いの。あ。も。う。う。
彼金亀。残。再び。鈕へかへさんもの。と。あひ定め
其。休。み。泉水へ。也と。飛入る。右。往。左。往。子。追。廻。る。古
乃。花。も。是。残。る。う。按。子。子。力。を。添。人。と。一。舟。く。池
よ。と。び。入。川。金。亀。浮。め。を。共。に。浮。び。金。亀。沉。め。を。俱
沉。る。追。廻。は。る。羊。向。む。う。水。子。操。せ。く。結。ひ。し
太。帝。解。さ。る。も。中。の。幸。と。着。た。る。小。袖。紙。脱。持。る。細
乃。如。く。小。金。亀。の。上。上。上。上。の。う。ち。か。ら。色。を。程
道。走。ん。と。蠢。め。く。残。兩。女。并。し。く。力。を。戮。し。く。地。上

二風文七十一
七目
七目

へ撲地と投擧せら。今逆龜の取とえり。銘晃
くたる白刃あり。人々を妖奇異域とく。辞ハあ
く嘆息せり。妖敗陀人の目みの強くくするをけ
るも。床之進が眼前も。数多の赤蛇あり下
る。手足強纏みと覺し。忽ち精神虚脱し。戦ん
とけり。氣力なく。手足も麻痺し。中刃も。ゆる
けるが。脱ると能く。念くくと苦く。忍と。
兩人を得たり。かゝると。押へる首派捨落せど。
不思議や首の切口より。一道の白氣を昇り。一條

の大蛇長き舌を肉くり。大空より昇るとみ
まど。さも恐ろし。黒雲の忽地震く。雷電や。喪
星天子満くた。かくて奸賊難なく。平治宝刀再
びも入る。れど。人々勝興強擧げ。一息つた。古
乃花桜子。兩人が拵弁の雄々。死強賣賣に。要取
有。鎌田盛直。衆人より。対ひ。各位の忠勅も。く
逆賊株子伏し。たまを。歡び。こせ。み。あ。く。こと。あ。し。
清澄忠直。兩人。其。首級と。宝刀を。携へ。吾主君の
處へ。行。巨細の。容子。辨。言。上。中。上。だ。し。と。嚴

二層政村... 九... 一...

子命せしる。二人を領掌し。首級名刀携へて。御陣知して往んとほし。後のかさなり高き。陣処へ来た。道もあし。先到より城知し。容子を知つと。隔の狭門と押あけ。則ち公郷威の版奉ふ。青地の錦の陣羽織を着。赤銅作の太刀を佩。弓矢携へ悠くと上坐し。坐玉へ。近習扈後の人し。ホ。左右二行し。列坐し。みひらけね。人々も。驚た。あがり。平伝は。宇羅上どの。仗然と。中啓膝し。おし。立玉い。抑枕塚典。孫父子。年未の

悪逆不道。鎌田秋月。二人が内裏より。知れた。きども。兩人郎は。有る。良き。針。う。あ。屋。し。とおのへ。が。些とも。ん。を。芳。せ。只。管。宮。関。成。守。護。せ。し。先。刺。き。け。が。此。郎。は。螺。鉦。あ。し。一。崗。成。作。し。合。戦。せ。り。との。鳴。あ。る。敵。々。味。方。々。何。子。も。せ。よ。か。ゆ。と。あ。し。と。陣。中。を。潜。び。中。々。子。出。て。来。り。窺。い。ら。る。足。下。亦。が。奸。賊。成。株。は。る。あ。り。々。々。余。今。此。処。へ。立。出。る。と。足。下。亦。が。効。成。偷。む。子。奔。し。と。忍。び。身。を。潜。め。其。は。る。や。う。成。ら。か。び。ひ。ん。る。子。いと

武蔵志 卷之六 七六

も怪しむる刀の奇特古乃花桜子が勇く行状
をうごとも驚嘆せし。其名刀のいりたる
た逆賊を討つと討滅せしに汝達ぞ忠肝義胆
乃ち其処感ぜしを餘りあり。此年来の艱難辛苦
左にそとにいやさるる。内憂より其概略
を聞知しむるも猶くいし。結をよくと宣へ
る。盛直清英古乃花操女をかくく蛇塚に謀及
み無せしをいれり。決海女が使者を待たし
の刀を携へて其咎めを切腹させんとす

清英言あどめく宝刀の詮義を出せし。盛直
が関門の古乃花が典膳。欺り寄る首と
見。走らんとし追捕人を出合す危うに
乃ち処へ忠直清陀末めし。追捕退け助
桂太郎勲當せし。嵐の山子籠りし。桂太郎
が牙子代りし。桂女が死せし。桜子が貞操節義
女の操が織練兵論今夜の謀計儲りし。桂女が首
成も。無之進賊欺りし。原六が突塞ありし中
兩人を舎籠り子を刺し。佐子漏さぬ義人の

二風抄新編 卷之二十 七十七 室文堂

りど城ありたり。たゞる。三吉が孝心のる。枕塚が
首とりし。目今よいさる。近邊もあく。歩へ上せを。
海分形改更め。大吏乃之使者。子往なぐし。宝刀
改め精取ざりし。其言次子切腹せよと。枕塚が
言よ任せ。生害せんと至せし。秋月老人の情恒
あり。一命助けし。宝刀詮義の其為あり。本国へ
下り。舞子の演の松系あり。一人の仙僧も出逢
り。云々のるあり。宝刀の在処も好賊の。此春滅
亡せんも。明白も知れた。故仙僧の言辭も從

ひ。直地も都へ立還り。彼是詮義の肉も。不意
例室の危難。あり合せし。援けありせ。衆六が行身
成潜あり。取の至る。成行作りし。稍やく天運
循環して。仙僧の言辭も一変違ふ。今日只今逆
賊滅び。宝刀再びよ入りし。全く君の御運もよ
せ。いと延引あり。及びたれども。竜丸の宝刀只
今捧け奉ると。おん衆もさし。並に。宇良上どのの
熟い。始終の容子。少し食れ。開し。増す。枕塚が
子が。悪逆不道。悪むべく。汝も。忠肝。胆年

来の親難辛苦賞にたぐちの憐むなり。夫を借舎
と忠直我刀を取らぬせしむ。余をのやく覺ふし。
彼竜丸を我家に代へ傳へる。希世の名刀。心を掛
るものありんも。針を難しと云ふらう。平生例は
離れにけり。余が護身刀とせり。宝苑に収めしを。
其影の刀を色を大うと似るれども。尋常の刀
ありん。何とくもく取らぬさん。是を渠が毒
針あり。又其刀の灵あり。彼蛇塚が一心を竜丸
ありと云ひつ。いさくも信持らう。故に浩る

奇特のありし。世の常言も鯁の味も信
心すせど。弥陀の光明有と。是木の夏ありべし。
いふくと取上る。刀室と脱し見あへど。云ひし
ものを弥増し。銘見たる名刀あり。是を奇しと
す。所佩刀をひきぬき。比べ見らふ。いつは誠夫
と分難き近彷彿とせども。よくうれど。宝刀の竜
の頭あり。角と云ふ。記すのあれども。今一口あり
こそあれ。外に換りし変をふし。人々を是誠
とす。堆雄の劔と成らうと。噴けらる。則宗公堆竜

則宗
忠臣
褒賞
給ふ

利兵衛

孫女

梅子



則宗公

雄竜と号玉ひ。倍く重た宝とく。白刃を刀室に
収め玉ひ。衆人よ宣ふやう。聞けがきくやど悪
くも。猶悪むなれ渠ホダ行状。蛇塚が首級を。埃
首級と緒共。ホ子梟と衆よしめせ。又蛇塚が一
族。討滅されしをのあう。とまう切腹中付よ。
其おの衆人。假令徒黨よ与しちうとも。日頃の
知行を。忍合。汝達よ。汝汰は。不忠の心
を。あう。威勢。敵。か。さく。さく。流々。渠。子。徒
後。し。者。も。大。半。有。た。残。無。下。子。死。に。も。不。便。あ。う。

と兵士ホ子。奇せし。二ツの首級。残。出。さ。し。う。み。残。
う。く。く。う。れ。を。宮。越。云。蕃。荒。牧。勇。馬。二。人。が。首。級。を。
り。鎌。田。秋。月。ホ。を。是。と。ま。う。埃。兩。人。が。首。級。を。何
の。者。も。得。玉。ひ。し。と。向。へ。ら。則。宗。莞。尔。と。し。て。汝
ホ。が。麻。之。進。ホ。と。戦。う。間。子。山。畑。泰。平。ホ。南。堅。吉。兩
人。子。士。年。残。授。け。て。渠。ホ。が。郎。子。指。む。け。る。誓。せ。し
あり。と。結。り。玉。へ。を。衆。人。と。其。頭。才。を。感。賞。し。則。宗
再。び。宣。ふ。や。う。斯。政。度。の。一。條。に。大。か。さ。あ。う。ぬ。大
変。あ。う。を。傳。故。あ。く。治。め。る。汝。達。が。勤。切。を。賞。せ。し。

んが有べしと云ふ。と夫も子褒賞あり。而して後土
た命はるやう。古乃花少女かか。謀反の魁首典
膳代討つ。一株の血判状畧奪。其効の少く
ねら。更く余本妻を直にだす。又余が女弟細浪姫
国もあつて。今迄十七歳の項も似合し。なれど。
召せし。淡海女。省の妻。嫁にだす。又桂太郎
と按子を。狩嫁あり。中と。きけだ。今日より。女夫
と。だ。標女を三吉。改嬬。鈴子と。志賀之介と
名改め。大西の家。お侍させよ。又采女。直盛が

即ちあれども。今日より。余が精より。直糸の家
隸と。おは。べき間。直。忠勤。励む。盛。直。も。尔
お。は。と。遠。る。か。お。は。公。命。も。衆。人。を。君。恩。の。か
た。し。け。る。に。を。感。佩。し。て。唱。へ。り。雲。取
有。り。別。宗。公。吾。を。是。より。傳。知。へ。ぬ。程。も。官。附。成
さ。束。べ。し。汝。達。を。を。戮。し。て。宣。し。余。成。羽。翼。せ
よ。両。家。の。確。執。起。り。最。早。四。歳。子。及。べ。ども。
猶。平。治。べ。た。系。し。た。あ。り。ぬ。を。可。悪。り。ま。る。ま。る。ま。ど
も。あ。り。共。合。戦。の。活。る。近。郊。に。汝。木。子。類。く。る。百。国

の交兵^{まじり}糧^いの^り。万^{よろ}交^あ交^あし^く計^{はか}ら^るだ^しと。後^{のち}の^り
 ち^とつと^とぐ^あ作^せあ^さ玉^ひひ^つ。脚^こ跡^{かん}知^らさ^して^ま出^で
 玉^へ乞^ふ人^ら々^々々^々。轅^{えん}門^{もん}の^り。前^{まへ}ち^と送^おり^ま届^とけ^らら
 せ。各^{おの}位^の郎^下へ^かつ^り々^々。是^こより^よ四^よ歳^{さい}の^り春^{はる}秋^{あき}々^々
 文明^{ぶん}五^ご年^{ねん}と^り々^々。山^{やま}名^な細^こ川^{がわ}緒^お兵^{へい}々^々。病^{やま}々^々死^し
 あり^りあり^りい^い々^々。国^{くに}々^々。大^お名^な小^こ名^な々^々
 々^々。知^ち領^{りやう}々^々へ^へ飯^い国^{こく}あり。始^は々^々京^{きやう}師^し平^{へい}徳^{とく}々^々治^ち
 々^々。宇^う羅^ら上^{じやう}々^々の^りも^も密^{みつ}々^々。内^{うち}城^{じやう}々^々。源^{げん}田^{でん}
 秋^{あき}月^{づき}大^お西^{せい}木^{ぼく}有^ある^り。洲^す山^{さん}畑^{はたけ}の^り忠^{ちゆう}臣^{しん}々^々。大^お平^{へい}乐^{らく}々^々
 々^々。

ち^ちの^の民^{たみ}を^を控^かへ^り玉^{たま}ひ^ひ々^々。民^{たみ}其^{その}徳^{とく}々^々。大^お平^{へい}乐^{らく}々^々
 々^々。

嵐^あ岐^ぎ花^は月^{げつ}奇^き譚^{たん}卷^{まき}之^の十^{じゆ} 大^お尾^び

皇都 鶴山逸人 瀬川恒成作

同 隔梅散人 關亭京鶴技

同 青楊齋 菱川清春画

八代駒下駄物語 やつろこまげこめがら 嘯月堂作 前後十冊

敵討雨夜傘 あまよの 同作 前後十冊

京都寺町通佛光寺 河内屋藤四郎

江戸日本橋通壹丁目 須原屋茂兵衛

同 貳丁目 山城屋佐兵衛

同 貳丁目 須原屋新兵衛

司南傳馬町壹丁目 山城屋政吉

同 下谷街成道 英文藏

同 大傳馬町貳丁目 丁子屋平兵衛

同 芝神明前 岡田屋嘉七

同 和泉屋古兵衛

大阪心齋橋筋水町角 河内屋藤兵衛

八咫心齋橋筋水町角 河内屋茂兵衛

書 林

